

第 129 回 GiST セミナー

「今や我々は皆「メタサイエンティスト」なのか？ 研究政策とファンディングにおける
エビデンス、分析、戦略的インテリジェンスの変化する状況」



James Wilsdon 教授

Executive Director, Research on Research Institute (RoRI)

Professor of Research Policy, Department of Science, Technology, Engineering and
Public Policy (STePP), University College London

■日時：2024 年 10 月 9 日 16:30-18:00 (16:00 開場)

■場所：政策研究大学院大学 4A 会議室

[アクセス | 政策研究大学院大学 \(GRIPS\)](#)

基本的には対面で実施します。オンラインでの参加を希望する場合は登録フォームでお知らせください。

■使用言語：英語 通訳はありません。

■参加申し込み：<https://forms.gle/jJFFuFjgb74eYvBF6>

■主催：政策研究大学院大学 科学技術イノベーション政策プログラム (GiST)

■問い合わせ先

政策研究大学院大学 林 隆之 ta-hayashi@grips.ac.jp

■講演概要

2000年以降、世界全体での研究開発への投資は年間2兆5000億米ドル以上に増加した。これに伴い、研究開発システムに対する期待の高まりと共に説明責任も求められてきた。また、研究に関する研究(メタリサーチ、メタサイエンス、科学の科学とも呼ばれる)の拡大も進み、この分野の認知度も高まっている。これらの取り組みは、研究システムをより深く理解し、研究開発リソースが戦略的に投資されることを保証し、成果の普及、測定、評価の方法を改善することを目的としている。

これらの課題は新しいものではない。メタサイエンスは、研究開発システムに関する豊富な研究の歴史の上に築かれている。しかし、科学的なプロセスを調査するために、新しいツールやデータ主導の方法論を導入する研究者の層も拡大している。そして、いくつかの政府はメタサイエンスのための新しいプログラムを開始している。

- ・英国：政府が内部にメタサイエンスユニットを設立。英国研究・イノベーション機構(UKRI)がメタサイエンス助成金スキームを設立。
- ・カナダ：間もなく新しい省庁横断的なメタ研究へのファンディング募集を開始。
- ・ノルウェー：拡大した「研究とイノベーション政策に関する研究」の公募を実施。
- ・ドイツ：フォルクスワーゲン財団が「研究の研究」のためのプログラムを実施。
- ・米国：NSFが「科学の科学」ファンディングプログラムを実施し、他機関と協力して新しい手法の実験を実施。
- ・中国：最近の「科学の科学に関する上海宣言」で、これらの分野へのさらなる投資を呼びかけ。
- ・アイルランド：メタサイエンスを新しい統合ファンディング機関であるリサーチ・アイルランドに組み込む取り組み。

新しいアプローチが試験的に導入され、新しい機関が設立されている。その一例が、研究システム、文化、意思決定に関する変革的研究を加速させることを使命として2019年に設立された Research on Research Institute (RoRI) である。

本講演では、RoRIのJames Wilsdon氏がメタサイエンスの変容する状況について紹介する。同氏は、メタサイエンスは学問分野というよりも、むしろ、研究者が所属するネットワークや機関において、ほとんどの研究者がいずれは遭遇するであろう問題への取り組みの方向性や様式であると説明する。同氏は、メタサイエンスが日本の研究開発政策にもたらす洞察とは何か、また、日本のシステムが世界的なメタサイエンスの進歩にどのような戦略的インテリジェンスを提供できるかについて問いかける。

■講演者略歴

Prof. James Wilsdon :

科学と研究のガバナンスやエビデンスと意思決定の関係を研究テーマとしている取り組む学際的なメタサイエンティスト。2023年よりユニバーシティ・カレッジ・ロンドン(UCL)教授。2019年に共同設立した Research on Research Institute (RoRI) のエグゼクティブディレクターを務める。RoRIのコンソーシアムには現在、年間25億ドル以上を研究開発に投資する15か国の研究資金提供者が参加している。

1990年代後半から国際的な科学技術政策の中心で活動しており、シェフィールド大学、サセックス大学、ランカスター大学の研究職を歴任。シンクタンク、NGOや英国王立協会の科学政策と国際関係のディレクターを務めた。

研究の上流からの市民参画、科学技術外交、責任ある研究評価などの概念を推進してきた。国際的な科学的助言のネットワークであるINGSAの共同設立者であり、2021年まで副会長を務める。2014-15年には研究指標に関するレビューを主導し、『The Metric Tide』として公表。近年続編である『Harnessing the Metric Tide』が発表された。2015年に英国社会科学アカデミーのフェローに選出。2022年には国際科学会議(ISC)のフェローにも選出された。